

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
104	川崎市立南百合丘小学校	佐野 達夫

学校教育目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ○考える子(進んでよく学びよく考える子) ○思いやりのある子(心の豊かな思いやりのある子) ○ねばり強い子(心身ともに健康でねばり強く取り組む子) 	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を育成する教育の推進(ねらいが明確な授業・学習の質を高める授業改善) ・自ら考え、判断する力を育成する教育の推進(主体的に判断、行動し、協働的に学ぶ力の育成) ・豊かな心と健やかな体を育成する教育の推進(心の教育・道德教育の充実) ・開かれた学校づくりの推進(信頼される学校づくり・家庭や地域との連携)

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 たのしい学校の創造 特色ある学校づくり ①	<ul style="list-style-type: none"> ・ポンポコ太鼓の継承と場の確保 ・体験的学習活動の推進 ・キャリア在り方生き方教育の推進 ・伝統文化、環境学習など外部講師による教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポンポコ太鼓への意欲的取組と継承への強い思いと憧れ ・実行委員会制等による児童活躍の場の確保及び創出 ●地域を知る機会の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習や発表などの時期の選択とそれを見通した計画・時間構成の立案 ・研修機会の増加と有効活用、その後の検証 ・地域教材の掘り起こしに伴う地域研修
2 学力向上・指導力の向上 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学び、対話的学び、深い学びにおける教材や指導方法の工夫 ・一人一人に応じた指導の工夫充実 ・朝学習や体験的な学習の充実、外部講師への協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・場の工夫と教材研究 ・GIGA端末を使つての意欲づけと家庭学習の取組・周知・充実 ・学年共通理解による指導 ●全国学テ、学習状況調査等の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・各先進校、研究会への参加、情報収集と活用 ・教材教具の見直しと工夫、学習教材の整理と活用 ・児童の見取り強化と指導と評価の一体化 ・全国学テ、学習状況調査等の分析と授業改善
3 互いに認め合い助け合う学 校 ③⑤①	<ul style="list-style-type: none"> ・かわさき共生*共育Pによる継続的な指導と関わる力の育成 ・学年交流・異学年交流の充実 ・人権及び生命尊重など道德的実践力の育成 ・考えを深める道德への転換 	<ul style="list-style-type: none"> ・道德授業公開、授業参観での取組及び人権尊重教育の研修 ・話し合い活動を充実させた道德、特別活動の取組改善 ・学年集会や異学年交流の取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・MEETの活用による取組 ・主体的、多面的な考え方や捉え方の授業へ ・児童の活躍の場と教師の役割分担の明確化
4 児童指導の充実 ④⑥⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ルール、正しい言葉遣いの指導徹底 ・あいさつ運動の推進強化 ・情報モラル教育の推進と保護者への発信・協力依頼 ・児童理解のための研修の充実、情報の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童指導部会、職員会にての情報の共有と振り返り ・職員の昇降口でのあいさつ、児童の校門でのあいさつ運動 ・全学年により情報モラル学習と系統化、講師による指導、研修 ・多文化共生をはじめとする職員研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による研修機会を増設 ・児童指導部会、学年部会の充実 ・情報の一層の共有化と手立ての改善、1次支援の強化 ・学年、学校単位で見取り関わる体制の充実
5 学び合う学校づくり ⑤⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会制を取り入れた取組・読書活動の充実 ・委員会、クラブ、係活動の充実・ICT機器の活用 ・多様な見方、考え方ができる児童の育成 ・教室環境、授業改善の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回の朝読タイム ・各学年実行委員会制を取り入れた活動とICTの活用 ・委員会、クラブ、係活動を通じた自主的活動と計画的な取組 ●ボランティアによる読み聞かせ活動と図書室整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室環境の見直しと点検強化 ・見合う授業から学び合う授業への改善 ・ICT機器・GIGA端末の利用方法、研修の充実 ・蔵書の充実、今後拡充される図書室の利用計画
6 開かれた学校づくり 家庭・地域との連携 ⑥⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談、懇談会、土曜参観、教育相談日などの設定と充実 ・HPの更新充実、各種たより、アンケートの充実と配布 ・児童支援コーディネーター、カウンセラーによる児童相談 ・学年・学校行事の周知と協力体制の構築・幼保中との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・各便り、配信メールによる情報発信 ・各関係機関との早期連携と児童相談の強化 ・教育相談の充実 ●各校種との連携・HPの更新充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・他校種、関係機関との一層の連携 ・さらなる情報発信方法の模索 ・配信メールの有効活用とペーパーレス化(PTA活動含) ・メールによるアンケートの活用
7 心身の健康の促進 ⑦⑪	<ul style="list-style-type: none"> ・南ユリピック、学年集会を活用した絆づくりと体力向上 ・体験を取り入れた食育と健康教育の充実 ・体育的活動の充実 ・日頃の児童理解と家庭との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭、養護教諭を中心とした食育と保健学習の実施 ・各種たよりによる健康面・食育面での情報発信 ●再生整備による校庭縮小に伴う運動量確保 ●家庭教育学級の取組(PTA任意化に伴う懸案事項) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の活動の充実と各部会の取組系統化 ・さらなる養護教諭、栄養教諭による取組の拡充と充実 ・子育て支援センター園庭の借用による体育実施 ・家庭との連携と周知の徹底、児童への意識づけ
8 安全・安心な学校づくり 感染症対策 ⑧⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練、シェイクアウト、不審者対応、下校指導の充実 ・保護者との連携とパトロールの充実 ・警備員配置とこども110番の家との連携・地域との連携 ・町会、地域との情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種避難訓練とシェイクアウト訓練、下校指導の実施 ・警備員・保護者・職員によるパトロールと立ち番制 ・地域による学校の有効利用と連携 ・コミュニティースクールへの移行 	<ul style="list-style-type: none"> ・各町会の取組み把握と参加の継続、学校との連携強化 ・情報の発信と双方向による確認 ・警備体制の継続(PTA任意化に伴う検討)

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>安心・安全な学校づくりという点で、登下校中の児童の安全確保に対しては、コミュニティースクールを通じて、地域の自治会や保護者の方々から「連携しながら今後できることがあれば協力する」との言葉をいただいている。また、コロナ感染症が5類感染症に移行してから、児童が安心して学習活動や学校行事に取り組んでいる様子が見られるのご意見も寄せられている。令和5年度より増築棟工事や再生整備工事が行われており、校庭が半分近く使用できないことから運動量の確保の上でご心配をいただいている。学校を中心とした地域のネットワーク作りをしていくことで、学校での取組や情報を共有していけるとのお話もいただいた。</p>	<p>今年度は学校の大規模工事が始まり、児童、保護者、地域の方々には多くのご迷惑をかけることになったが、学校行事や授業参観をはじめとし、できることをできる範囲で積極的に実施する方向に努めた。アンケート結果を見ると、昨年度と同様にどの項目に対しても比較的好評の結果を得ているが、児童のアンケート結果だけ見てみると、⑥の数値が他の設問に比べ低いことがわかる。困ったときやわからないときに先生に相談できないというのは、一層の児童理解の充実が求められていることだと考えられる。児童理解では支援教育コーディネーターを中心に関係機関との連携を図ってきたが、まずは1次支援として教室内での日頃の取組や対応の確認を徹底していきたい。その上で学年会や職員会議等での情報の共有を進めていこうと考えている。児童も教職員も、自己有る感や自己肯定感が実感できる場づくりに取り組み、互いのよさが響き合う学校づくりに努めていきたい。今年度は欠員が埋まらずに職員の負担が大変大きかったため、次年度は、分掌や構造の見直しを行うなど、職員の業務の軽減と効率化に取り組んでいきたい。</p>